

2026年5月14日(木)

老球の細道922

ゴールデンウイーク大会観戦雑感

会津バスケットボール協会 室井 富仁

【第24回しらはぎカップミニバスケットボール大会】5月4日(月)5日(火)

謹教ミニバスの主催であいつ総合体育館において県内外から男女各12チームが参加して熱戦が繰り広げられた。男子は今年度県大会優勝候補の一つに挙げられる県南地区の小田倉ミニバスが優勝。女子は新潟から参加した巣本キルケニーキャッツが優勝した。

この大会は24回を誇る由緒ある大会で、謹教ミニバスの主催でありながら、あいつ総合体育館を会場にして、コーチングスタッフ、保護者による組織力には目に見張るものがあった。大会運営、プログラム作成など地区協会にも負けにくいぐらいの勢いである。

わが孫たちのチーム城北行仁男女もこの大会にエントリーされていたので、二日間観客席で応援をした。特に女子チームが上位を期待されていたが、新人戦時のような勢いがなく残念な結果に終わってしまった。孫娘のプレイも「ザ・消極」そのもので、両親の落胆はそばで見ていてかわいそうぐらいであった。

メンタルトレーナーの高畑好秀氏の著書に『根性を科学する』の中に、チーム、個人が最悪の状態の時の思考法として次のようなことが書いてある。

「できない理由をを拾いあげたらきりが無い。できる理由を可能なかぎり列挙していくことが突破口になる。最悪の状況、最低の試合結果の後でも“自分はここがよかった”という点を最低2つを書きだすようにさせています」

孫たちがこれからどのように突破していくか楽しみである。水前寺清子のヒット曲で♪365歩のマーチ♪がある「人生は3歩進んで2歩下がる」。少しずつ進むしかない。

【第72回県高等学校体育大会会津地区大会】5月9日(土)～11日(月) 若商

高校の大会は年々少子化の影響かどうか分からないが、チーム数、チーム人数が減少し寂しい大会になってきた。私が関係したチームは3校が今は存在しない。

今年の会津地区の男子3年生世代はミニバス時代に塩川が県大会優勝を果たし、それ以外の松山、坂下なども県内トップクラスのチーム力を誇っていた黄金世代である。ところが、順調に伸びて行かず、今では県大会1回戦を突破するのも至難の業となってしまった。

今回数チームの試合しか観戦できなかったが、共通して感じたのは1:1のプレイが多いということだった。オフボールマンが止まり、スペーシングのない状態で強引に1:1をしかけるのでタフショットが多く、ターンオーバーやシュートミスが目立っていた。

現在の会津地区のレベルではチーム力を向上させていかないとなかなか厳しいと思う。チームオフェンスが機能している状態は、私は次のように考えている。

①ムービング(ボールが動く、人が動く)②スペーシング③タイミング④コミュニケーション、そして各プレイヤーの⑤リード・ディフェンス(状況判断)。

男女ともに今年こそサプライズ、アップセットを期待したい。壁はたたけば、穴が開く。